

静岡県 森林作業道作設に係るチェックリスト

区分	チェック項目	チェック
路線計画 基本事項	① 路体は堅固に締め固めた土構造を基本とする。	<input type="checkbox"/>
	② 地形に沿った屈曲線形、排水を考慮した波形勾配とする。	<input type="checkbox"/>
	③ 林道や公道との接続地点、地形を考慮した接続方法を適切に決定する。	<input type="checkbox"/>
	④ 作設箇所は原則として地山勾配35°未満とし、人家、施設、水源地などの保全対象が無い箇所を基本とする。特に保全対象に直接被害を与える可能性のある箇所は絶対に避け、適切な迂回方法を決定する。	<input type="checkbox"/>
	⑤ 急傾斜地の〇次谷を含む谷地形や破碎帯などの危険箇所は極力避ける。避けられない場合は、区間を極力短くする。	<input type="checkbox"/>
	⑥ 溪流からは離し、濁水や土砂が溪流へ直接流入しないようにする。	<input type="checkbox"/>
	⑦ やむを得ず次のような箇所を通過する場合は、構造物の設置などの適切な対策を講じる。 ・地山勾配35°以上の箇所 ・保全対象が周囲に存在する箇所 ・水が集まりやすい箇所、風化の進んだ箇所などの一般的に崩壊しやすい箇所 ・溪流沿い	<input type="checkbox"/>
	⑧ 森林施業の効率化の観点だけでなく、小規模所有者の森林における潰れ地を極力少なくするよう配慮する。	<input type="checkbox"/>
	⑨ 生産性を重視するあまり、過度な路網密度にならないように注意する。	<input type="checkbox"/>
	⑩ 造材、積込み作業等を安全かつ効率的に行うための空間を適切に配置する。	<input type="checkbox"/>
	⑪ 希少な野生生物等が確認された場合は、路線計画や作業時期の変更等を検討・実施する。	<input type="checkbox"/>
	⑫ 森林法等に基づく届出などの必要な手続きを行っている。	<input type="checkbox"/>

区分		チェック項目	チェック
施工	幅員	作業道作設指針に示されている「使用する林業機械」と「傾斜区分」に対応した幅員に適合する。	<input type="checkbox"/>
	縦断勾配	① 車両が木材を積載し安全に上り・下り走行ができることを基本とする。	<input type="checkbox"/>
		② 車両の自重、木材積載時の荷重バランス、エンジン出力等のほか、路面の固さ、土質による滑りやすさ、急勾配ほど路面浸食が起きやすくなることなどを考慮する。	<input type="checkbox"/>
		③ 現地条件が良い場合は概ね 10° 以下とし、やむを得ない場合は短区間に限り概ね14° 以下とする。	<input type="checkbox"/>
		④ 安全確保の観点から、急勾配区間と曲線部の組み合わせを極力避ける。	<input type="checkbox"/>
	排水施設	① 路面水がまとまった流量とならない間隔で設置する。	<input type="checkbox"/>
		② 横断排水施設やカーブを利用して分散排水する。排水先がない場合は、側溝等により導水する。	<input type="checkbox"/>
		③ 排水施設は原則として開きよとする。	<input type="checkbox"/>
		④ 小溪流の横断は原則として洗い越し施工とする。	<input type="checkbox"/>
		⑤ 丸太やゴム板による横断排水施設は車両の重量などを考慮する。	<input type="checkbox"/>
		⑥ 排水はカーブ上部の入口部分で行い、曲線部への雨水の流入を避ける。	<input type="checkbox"/>
		⑦ コンクリート路面工等を設ける場合は、地山と路面工等の境界の侵食防止等の観点から横断排水施設を設置する。	<input type="checkbox"/>
		⑧ 横断排水施設の排水先には、原則として水たたきを設置する。 水たたきは、状況に応じて、現場発生の上礫、土のう等から適切なものを選択する。	<input type="checkbox"/>
		⑨ 転落事故防止のため、降坂区間やカーブで谷側を低くしない。	<input type="checkbox"/>

区分		チェック項目	チェック
施工	切土・盛土	① 土質に応じた施工方法により実施する。	<input type="checkbox"/>
		② 基本的に残土が発生しないように計画し、拡幅や土場の設置により、土量が釣り合うように対応する。	<input type="checkbox"/>
		③ やむを得ず残土が発生する場合は、盛土規制法による手続きを行ったうえで自ら盛土するか、適切な処理施設へ搬出する。	<input type="checkbox"/>
	切土	① 切土高は1.5m程度以内を基本とし、高い切土が連続しないよう施工する。	<input type="checkbox"/>
		② 切土のり面勾配は土砂の場合は6分、岩石の場合は3分を基本として施工する。 なお、土砂や岩石であっても切土高が1.2m程度以内であれば、直切が可能な場合があるので、土質を踏まえて検討する。	<input type="checkbox"/>
	盛土	① 30cm程度の厚さの層ごとに十分に締め固める。	<input type="checkbox"/>
		② 盛土のり面勾配は概ね1割より緩い勾配とする。 盛土高は極力抑え、2m程度以内を基本とする。やむを得ず2mを超える場合は、1割2分より緩い勾配とする。	<input type="checkbox"/>
		③ ヘアピンカーブでは路面高と路線配置を精査し、盛土箇所を谷側に張り出す場合には、繰り返しの締め固めや構造物の設置などにより、路体に十分な強度を持たせる。	<input type="checkbox"/>
		④ 沢、湧水、地表水の局所的な流入箇所は盛土を避け、土場は設置しない。 やむを得ない場合は、排水施設を設置する。	<input type="checkbox"/>
		⑤ 盛土の土量が不足する場合は、当該盛土の前後の路床高の調整など縦方向での土量調整を行う。	<input type="checkbox"/>
曲線部	車両を安全に走行させるために、曲線部では、内輪差や下り旋回時のふくらみを考慮した十分な拡幅を行う。	<input type="checkbox"/>	

区分		チェック項目	チェック
施工	構造物等	① 構造物は現地条件に応じた規格・構造とする。	<input type="checkbox"/>
		② 軟弱地盤を通過する際は、水抜き処理、側溝の設置等を行う。	<input type="checkbox"/>
		③ 森林作業道の作設に不向きな黒ぼくや粘土質のロームなどで必要な路面支持力を得られない場合は、砕石を敷くなどの対策を講じる。	<input type="checkbox"/>
		④ 火山灰土など一度掘り起こすと締固めが効かない土質の箇所では掘削を行う場合は、火山灰土などの深さに応じて、剥ぎ取り、深層との混ぜ合わせなどの工夫をする。	<input type="checkbox"/>
		⑤ 2 t 積トラックなど接地圧の高い車両が走行する場合には、必要に応じて荷重を分散させるための丸太組等による路肩補強工を施工する。	<input type="checkbox"/>
	伐開	① 斜面の方向や気象条件を考慮し、必要最小限の幅とする。	<input type="checkbox"/>
		② 幅は土質条件や風衝を考慮して決定する。	<input type="checkbox"/>
		③ 路線谷側に沿った立木は車両の走行の支障とならない範囲で残す。	<input type="checkbox"/>
周辺環境への配慮	やむを得ず人家、施設、水源地などの保全対象が周囲に存在する箇所を通過する場合は、周囲への土砂流出や土石の転落を防止する対策を講じる。	<input type="checkbox"/>	
管理	① 一般車両の侵入を禁止するなどの適正な管理を行う。	<input type="checkbox"/>	
	② 森林作業道の管理主体を明確にする。	<input type="checkbox"/>	